

Daily Macro Economic Insights

鉱工業生産(25年1月速報)

—「一進一退」という基調判断よりも実態は弱い印象—

PwC Intelligence チーフエコノミスト、上席執行役員 片岡 剛士
シニアエコノミスト 伊藤 篤



1月生産は前月比-1.1%と3か月連続で低下、基調判断は「一進一退」で維持

鉱工業生産(25年1月速報)は前月比-1.1%と3か月連続の減少(12月生産は確報段階で下落へと修正)、前年比は+2.6%と3か月ぶりの増加となった。経済産業省は「生産は一進一退」と基調判断を維持している。業種別生産は全15業種のうち6業種が増加、9業種が低下という結果となり、特に自動車工業が前月比+6.9%、寄与度+0.88%ポイントと増加に寄与した。一方で低下業種は生産用機械工業、電子部品・デバイス工業、電気・情報通信機械工業といったところであり、特に生産用機械工業に含まれる半導体製造装置は前月比-19.4%であった。出荷は前月比-1.5%、前年比+2.0%、在庫は前月比+0.9%、前年比+0.5%となった。稼働率(12月)は引き続き前月比・前年比ともに低下した。生産能力実績は3月以降、前年比で減少が続いている点は同様である。

10-12月期生産は10月の値が前月比で増加したことで対7-9月期で1.1%増であったが、11月以降減少が続いていることもあり、1月生産の対10-12月期比は2%程度の減少となっている。これまでの弱めの生産の動きから判断する限り、1-3月期の生産が前期比で増加する可能性は低いように思える。

この点、製造工業生産予測調査を確認すると、2025年2月は前月比+5.0%、3月は同一-2.0%と上下しつつ推移すると見込まれている。そして2月及び3月の生産拡大には、電子部品・デバイス工業、生産用機械工業の増加がけん引するとの見立てだ。生産計画の上方バイアスを補正した補正值では、2025年2月の生産見通しは同+2.3%となる。2月及び3月の結果次第ではあるものの、2月生産が前月比4%を上回る拡大をみせない限り、1-3月期の生産は前期比マイナスになる可能性が高まっている点に留意すべきだろう。

図表1: 鉱工業指数(生産・出荷・在庫・在庫率、生産能力実績、稼働率)の概要

(%、変化率)

		生産		出荷		在庫		在庫率		生産能力実績 (製造工業)	稼働率(製造工業)	
		前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前年比	前月比	前年比
2023年	2	3.4	-0.5	3.9	0.7	0.6	1.5	-1.2	6.0	-0.4	3.0	-1.4
	3	0.4	-0.8	0.5	0.1	0.2	2.2	0.9	8.6	-0.4	0.4	0.8
	4	0.3	-0.8	-0.5	-1.4	1.3	6.0	1.4	12.7	-0.2	0.9	2.3
	5	-1.0	4.1	-0.3	3.8	0.6	7.2	1.0	8.8	0.0	-2.6	8.0
	6	0.9	-0.1	0.8	0.7	0.0	5.7	-0.6	9.8	0.1	1.5	0.7
	7	-1.4	-2.6	-1.3	-2.0	0.2	5.5	0.8	9.8	0.3	-1.7	-2.1
	8	-0.4	-4.7	-0.2	-3.1	-1.1	3.0	-0.5	9.2	0.1	0.1	-3.7
	9	0.1	-4.5	0.6	-2.4	-0.9	0.0	-1.2	4.3	0.0	0.1	-4.3
	10	1.2	0.9	0.3	0.8	0.0	0.8	-0.2	4.1	0.2	-0.4	-1.4
	11	-0.6	-1.6	-0.8	-1.7	0.0	0.9	1.5	6.3	0.2	0.7	-3.0
	12	1.2	-1.1	1.6	0.2	-0.9	-0.5	-2.3	2.3	0.3	0.2	-3.3
	2024年	1	-6.7	-1.5	-7.5	-1.7	-1.7	-1.8	2.6	0.8	0.1	-7.9
2		-0.6	-3.9	-0.7	-4.7	0.6	-1.7	-5.6	1.9	0.1	-0.5	-6.2
3		4.4	-6.2	4.7	-6.8	1.0	-1.0	7.6	6.8	-0.2	1.3	-11.2
4		-0.9	-1.8	-0.4	-1.4	-0.2	-2.4	-0.7	0.5	-0.2	0.3	-6.8
5		3.6	1.1	3.9	1.3	0.9	-2.1	-1.2	-1.5	-0.3	4.1	-1.8
6		-4.2	-7.9	-4.7	-8.1	-0.7	-2.7	1.7	4.8	-0.6	-3.1	-10.0
7		3.1	2.9	2.7	2.0	0.4	-2.5	-2.4	-3.9	-0.8	2.5	-0.1
8		-3.3	-4.9	-4.1	-6.5	-0.8	-2.2	5.3	5.9	-1.0	-5.3	-9.9
9		1.6	-2.6	2.4	-4.2	0.1	-1.3	-3.8	3.0	-1.1	4.4	-5.1
10		2.8	1.4	2.6	0.4	0.0	-1.3	-0.9	-0.4	-1.1	2.6	-0.1
11		-2.2	-2.7	-2.5	-3.6	-1.0	-2.2	3.2	2.7	-1.6	-1.9	-5.0
12		-0.2	-1.6	0.2	-2.7	-0.7	-2.0	-1.4	2.1	-1.7	-0.2	-2.9
2025年	1	-1.1	2.6	-1.5	2.0	0.9	0.5	0.3	1.1	—	—	—

出所: 経済産業省より筆者作成。生産能力実績、稼働率は12月確報値の結果である。

2月の生産計画は半導体・フラットパネルディスプレイ製造装置の増産次第

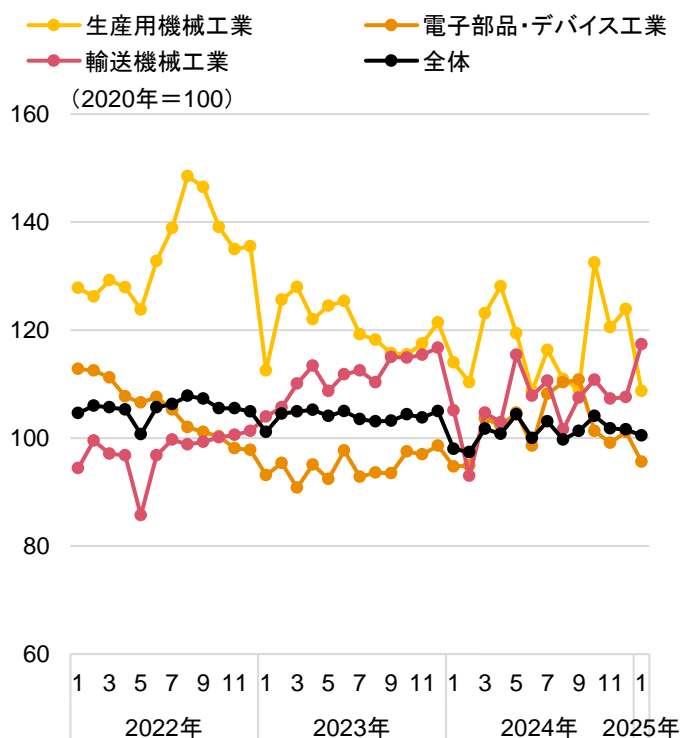
業種別生産の動き(図表2)をみると、1月の生産は前月比-1.1%と緩やかな下落が続いており、依然として2023年と比べやや低い水準で推移する状況は変わっていない。輸送機械工業については、台風の影響もあり再び大きく減少した2024年8月以降、全体として持ち直しており、1月はさらに大きく増加した。電子部品・デバイス工業は10月以降の減少トレンドが続いている。生産用機械工業はここ数か月下落トレンドを打ち消す形で持ち直していたが、1月は大きく減少した。全体として、鉱工業生産の動きは横ばいからやや弱めの動きである。

図表3は業種別在庫率の動きをまとめている。鉱工業全体の在庫率はわずかに増加した。電子部品・デバイス工業の在庫率は高水準で推移する一方、輸送機械の在庫率は低下しており、鉱工業全体の在庫率低下に寄与している。

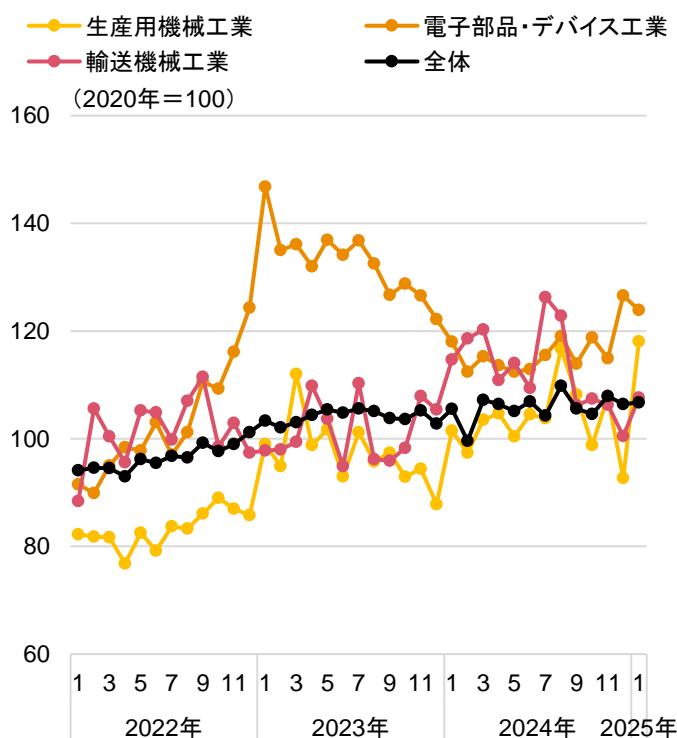
製造工業生産予測指数について産業別にみると、2025年2月及び3月については、電子部品・デバイス、生産用機械工業が主に全体の増加見通しをけん引する形である。半導体・フラットパネルディスプレイ製造装置の増産が2月に見込まれていることが大きく影響している模様だ。

企業のアニマルスピリッツ指標の動きをみると、1月のDI(原系列)は0.0%とここ2か月続いた弱気が上回る結果からニュートラルな結果へと改善した。変動を均したトレンドでみると、DIは+0.5%とやや拡大している。トレンドの動きをみる限り、アニマルスピリッツ指標は昨年10月を底にわずかながら拡大している状況だ。

図表2: 業種別生産(季節調整値)



図表3: 業種別在庫率(季節調整値)



出所: 経済産業省より筆者作成。

片岡 剛士
チーフエコノミスト、上席執行役員
PwC Intelligence
PwCコンサルティング合同会社

伊藤 篤
シニアエコノミスト
PwC Intelligence
PwCコンサルティング合同会社

PwC Intelligence 統合知を提供するシンクタンク
<https://www.pwc.com/jp/ja/services/consulting/intelligence.html>

PwCコンサルティング合同会社

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-2-1 Otemachi One タワー Tel: 03-6257-0700